

SDGsにつながる衣生活実現のために

名古屋学院大学ボランティアクラブ

1. はじめに

名古屋学院大学ボランティアクラブの取り組みを紹介します。

「SDGsにつながる衣生活の実現のためにー消費者の意識を変えるための啓発活動を中心にー」というテーマで活動を行ってきました。

SDGsにつながる持続可能な衣生活を実現するために、消費者の衣服に対する意識や行動を明らかにし、その改善に有効な啓発活動のあり方を検討しました。近年、地球温暖化や水不足などの環境問題が深刻化する中で、ファッション産業は大量の資源消費やCO₂排出、水質汚染を引き起こす環境負荷の大きい産業として問題視されています。特に日本では、安価な衣服を短期間で購入・廃棄するファストファッションの普及により、まだ着られる衣服が大量に捨てられている現状があります。こうした問題を改善するためには、消費者一人ひとりが衣服の購入・使用・廃棄のあり方を見直すことが重要です。

2. 先進地域への視察

「古着を燃やさない町づくり」に取り組んでいる、福島県いわき市を訪問してきました。いわき市では、NPO ザ・ピープルさんが中心となって活動を行っています。

NPO ザ・ピープルさんは、自分たちが住むまちの問題を自分たち自身が考え、その解決のため主体的に行動する団体です。実際に私たちも、古着仕分けのボランティアを行ってきました。私たちが体験した古着仕分けは、孤児院やゴミ山で暮らすカンボジアの方々へ支給品として古着を届けるための仕分けでした。カンボジアの人に、心地よく着てもらえるよう思いやりをもって仕分けを心がけました。

また仕分けをした着物を「いにしえ着物市」で販売するお店の見学もしました。古着が再び価値を持つ過程を学ぶことができました。

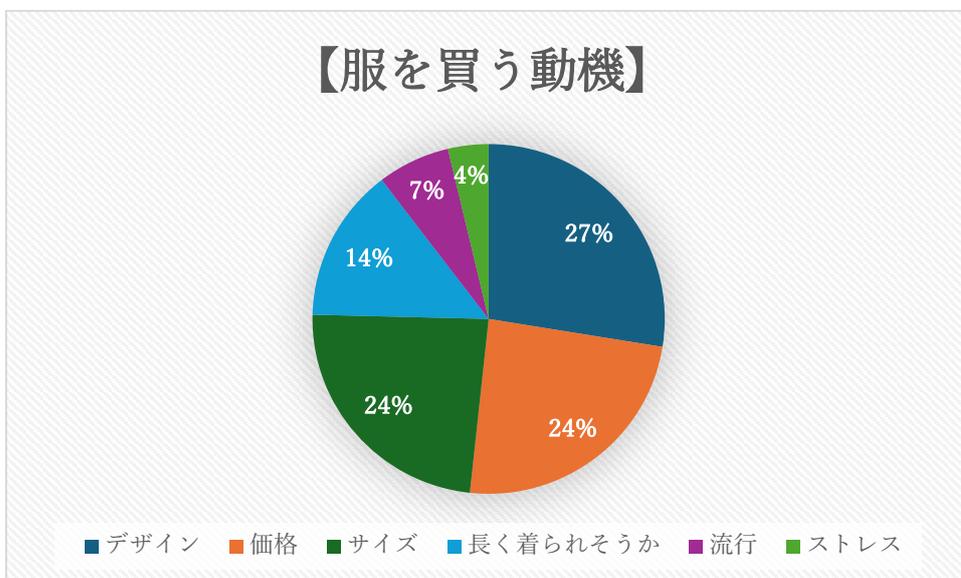


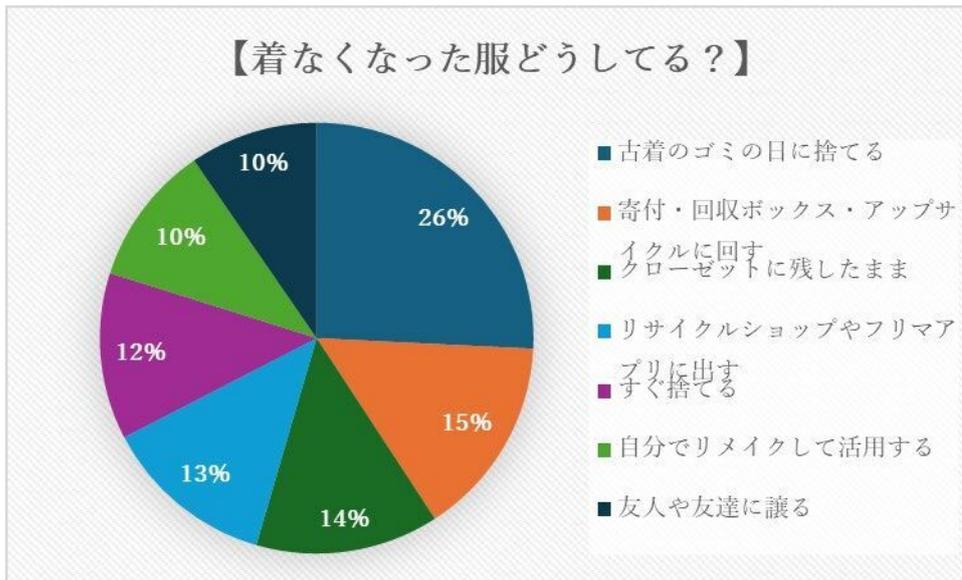
(カンボジアに送る古着の仕分け)

(「いにしえ着物市」の見学)

3. 意識調査

愛知県在住の10代後半から60代までの一般消費者を対象にアンケート調査を実施し、衣生活に対する意識と行動の現状を把握しました。回答に協力してくださったのは、名古屋市エシカルフェアならびに愛知地球博30周年記念事業での、名古屋学院大学ボランティアクラブのブースに来て下さった人たちです。回答総数465件の結果、服の購入においては価格やデザイン、サイズが重視され、素材や製造背景を積極的に意識している人は少数であることが分かりました。また、着なくなった服についても、燃えるゴミとして捨てる、クローゼットに放置するといった行動が多く、衣服が十分に循環されていない実態が明らかになりました。





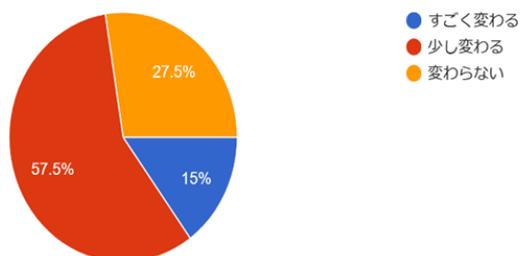
4. アドバイスシートによる啓発活動

環境問題への「気づき」や「違和感」を生み出すことを目的として、アンケート結果をもとに作成したアドバイスシートを配布し、啓発活動を行いました。このシートでは、服の製造に必要な水の量や化学物質、低賃金労働の問題、リユース・リサイクルの具体的な方法などを分かりやすく提示しました。さらに、啓発活動の効果を検証するため追跡調査を実施しました。

40件の追跡調査の結果、多くの回答者から「本当に必要か考えてから買うようになった」「衝動買いを控えたい」「素材や環境負荷を意識するようになった」「燃えるゴミではなく回収ボックスを利用したい」といった意識や行動の変化が見られました。このことから、適切な情報提供を行うことで、消費者の衣生活に対する意識改革や行動変容が一定程度促される可能性が示されました。

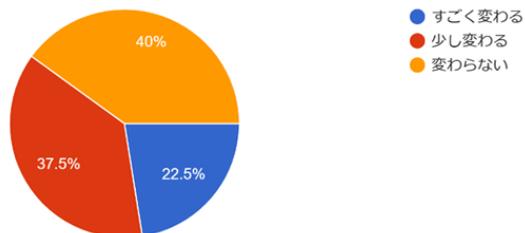
Q1.服を買う動機についての考えは変わりそうですか？

40件の回答



Q4.着なくなった服についての考えは変わりそうですか？

40件の回答



5. おわりに

回収場所の認知不足や、活動背景の説明不足、理想と現実のギャップといった課題も明らかになりました。今後は、数値や具体例を用いた分かりやすい情報発信を継続するとともに、誰もが無理なく実践できる仕組みづくりが求められます。以上より、SDGsにつながる衣生活の実現には、消費者の意識に働きかける継続的な啓発活動と、衣服の循環を支える社会的仕組みの両立が重要であると結論づけられます。

最後に、私たちの活動を支えて下さった、名古屋市スポーツ市民局消費生活課の方々に感謝を申し上げます。お世話になり、有難うございました。